

編集後記：「レーダー」か「レーダ」か。

今日、降水現象の代表的な観測装置として、様々な気象レーダーが様々な分野の機関により導入されており、天気の記事でも比較的頻繁に「レーダー」の文字を目にする。ここで、「レーダー」と長音を明記したが、radar (Radio Detecting and Ranging) のカタカナ表記は、どこの機関が整備したものか、あるいはどの分野の著者かによって「レーダー」または「レーダ」に二分される。

レーダー観測を始めて60年が過ぎた気象庁の場合、古くから「レーダー」と長音を明記する方法で統一されているが、他の機関が整備したものは「レーダ」と長音省略の記述で統一されることが多いように思われる。なお、内閣告示第二号 (H3.6.28) 「外来語の表記」によれば、原則は「レーダー」であるが、慣用に応じて長音を省略することができるかとされており、実際、オンライン学術用語集では「レーダ」の表記も多く見られることから、どちらか一方が正しいということはないようである。

文書校正の作業で表記の揺れをチェックしている

と、こういった表記（特に名称）の違いに関して、時折判断に迷うことがある。少なくとも同一著者の文中で揺れている場合は統一した方が良いと思われるが、固有名詞として記載されている場合は、『気象庁 C バンドドップラーレーダー及び国土交通省 X バンド MP レーダのデータを用いて…』などと混在を許すのだろうか。

このような用語のバラつきは、カタカナ表記に限らず国内外における観測装置の名称にも見られる。例えば、日本でウィンドプロファイラとして知られている Wind Profiler Radar (WPR) は、ドイツなど、欧州諸国では RWP 即ち Radar Wind Profiler という表記が多勢のようである。今般、国際的な気象観測における技術規則やその関連文書の改訂が進められている中、WPR が RWP として統一されることがあるかもしれない。

ちなみに、こんな瑣末なことを人一倍気にするのは、私の肩書きに「レーダー」の文字が入っているからかもしれない。長音省略すると、響きが悪くなるのである。
(梅原章仁)